

第1章 調査概要

1 調査目的と方法

(1) 調査目的

「岐阜市総合計画（ぎふ躍動プラン・21）基本計画 2013」（計画期間：2013（平成25）年度～2017（平成29）年度）では、心の豊かさの追及を掲げ、市民の心の豊かさを表す指標等を示し、これらを定量的かつ定期的に測定し、その結果に基づく、より現実的な政策展開を図っていくとしている。

そこで、計画に掲げた指標の進捗を把握するとともに、市民の意識や行動等を多面的に把握するための調査を「市民意識調査」として、今年度より実施することとした。

なお、本調査の結果を今後の政策の立案等に活用することで、だれもが心の豊かさを実感できるまちの実現を図っていくこととしている。

(2) 調査期間

平成25年11月5日（火）～11月18日（月）《2週間》

※11月21日（木）に礼状兼督促状を発送。

(3) 調査対象

満15歳以上の住民基本台帳登録者（中学生を除く。）

(4) 調査方法

住民基本台帳より対象者3,000人を単純無作為抽出した上で、調査票（107～109ページ参照）を郵送し、記入後、返送してもらう方法で実施した。

本報告書の留意事項

- ・各設問のnは有効回答数を表している。なお、各選択肢の比率はnを100%として算出している。
- ・各選択肢の比率はすべて百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、すべての選択肢の比率の合計が100%とならない場合がある。
- ・不適切な回答（単数回答のところに複数回答しているなど）については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意志が読み取れるものは、できる限り反映させて処理している。
- ・調査票の表現については、趣旨が変わらない程度に見やすく簡略化して示している場合がある。

2 回収状況と回答者属性

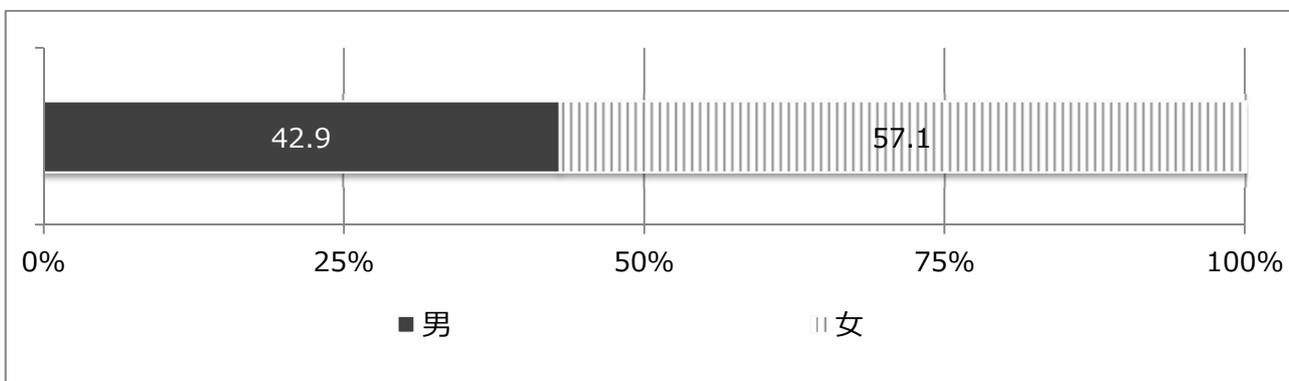
(1) 回収状況

発送数	回収数	無効数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,676	2	1,674	55.8%

※ 無効は白紙回答

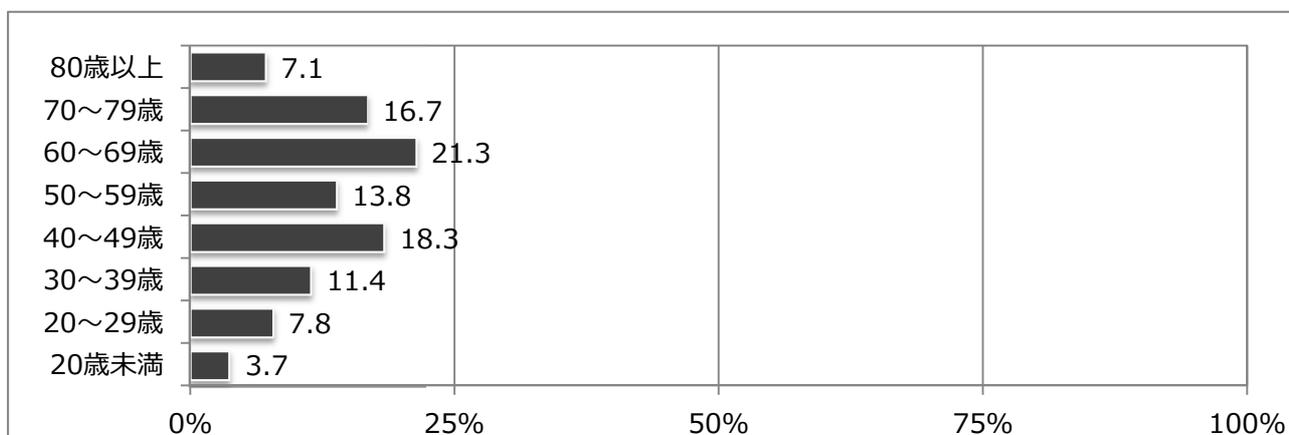
(2) 回答者属性

男女別構成 n=1,593



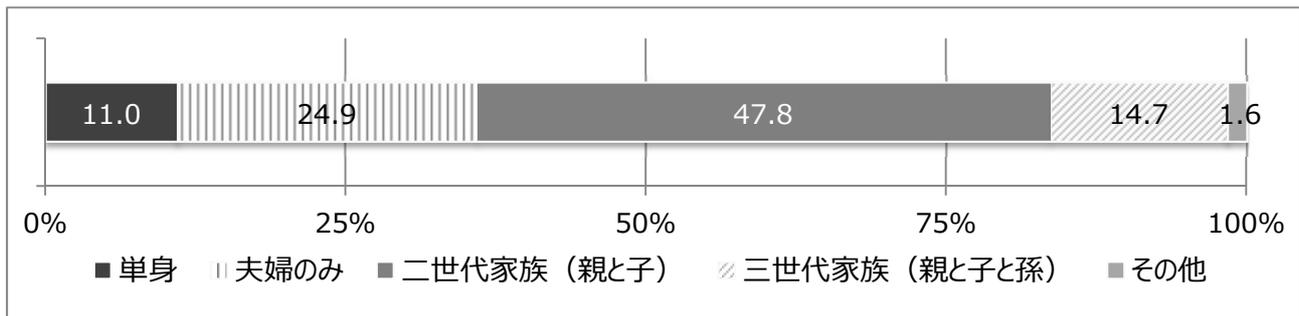
男女別構成をみると、「女性」が 57.1%、「男性」が 42.9%と、「女性」の比率の方が高かった。

年齢階層別構成 n=1,649



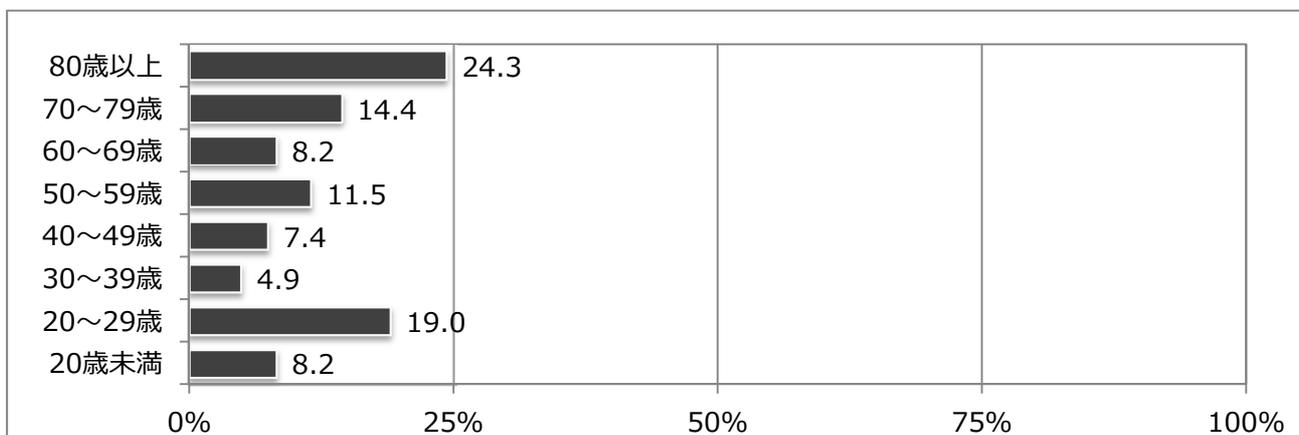
年齢階層別構成をみると、「60～69歳」(21.3%)の比率が最も高く、次いで、「40～49歳」(18.3%)となった。なお、「60～69歳」(21.3%)、「70～79歳」(16.7%)、「80歳以上」(7.1%)の合計が 45.1%となった。

家族構成 n=1,604



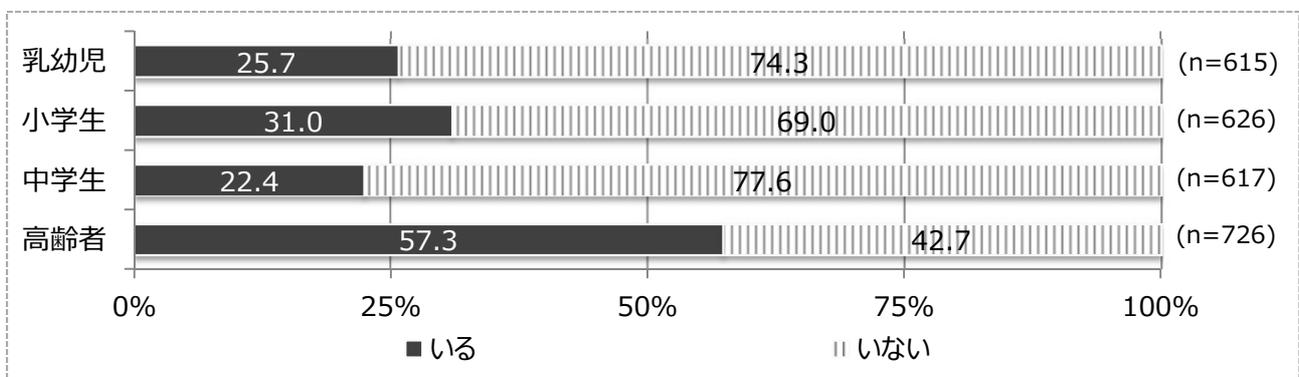
家族構成をみると、「二世世代家族」(47.8%)の比率が最も高く、次いで、「夫婦のみ」(24.9%)となった。

単身者と年齢階層別構成とのクロス集計 n=177



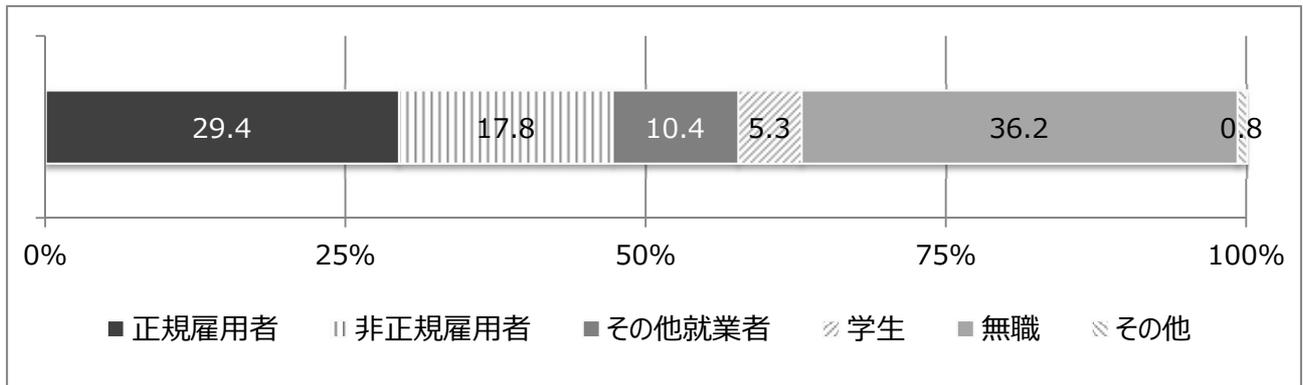
家族構成でみると、「単身者」の割合は11.0%と低かったが、「単身者」を年齢階層別にみると、「80歳以上」(24.3%)が最も高く、次いで、「20~29歳」(19.0%)となった。なお、「60~69歳」(8.2%)、「70~79歳」(14.4%)、「80歳以上」(24.3%)と回答した割合の合計が46.9%となった。

乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯



乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯別にみると、乳幼児のいる世帯が25.7%、小学生のいる世帯が31.0%、中学生のいる世帯が22.4%、高齢者のいる世帯が57.3%となった。

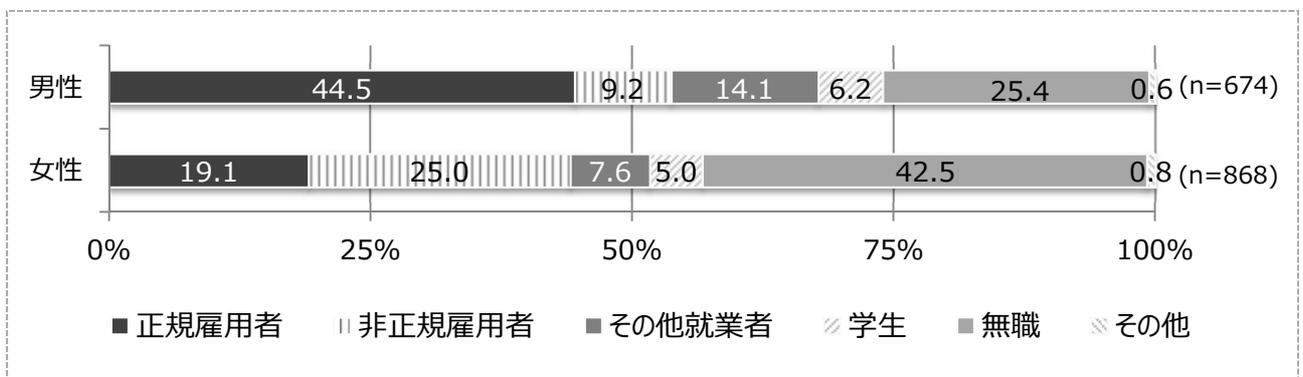
職業構成 n=1,592



※選択肢である「正規雇用者」は会社員・役員、公務員などのこと、「非正規雇用者」は派遣・契約社員、嘱託社員、アルバイト、パートタイマーなどのこと、「その他就業者」は会社経営者、自営業者、家族従業者、農業従事者などのこと、「学生」は大学生、専門学校生、高校生などのこと、「無職」は専業主婦(主夫)、年金生活者、失業中の方などのことを指す。

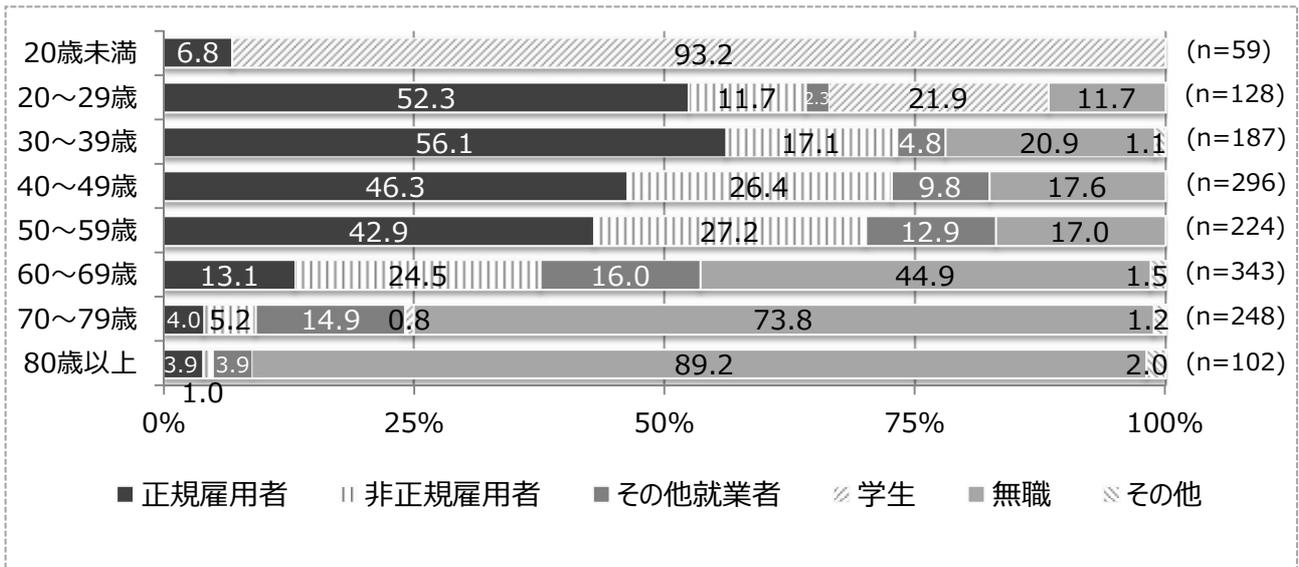
職業別にみると、「無職」(36.2%)が最も高く、次いで、「正規雇用者」(29.4%)、「非正規雇用者」(17.8%)となった。

男女別構成とのクロス集計 n=1,542



職業構成を男女別にみると、男性では「正規雇用者」(44.5%)が最も高く、次いで、「無職」(25.4%)となった。一方で、女性では「無職」(42.5%)が最も高く、次いで、「非正規雇用者」(25.0%)となった。

年齢階層別構成とのクロス集計 n=1,587



職業構成を年齢階層別（「その他」を除く。）で見ると、「正規雇用者」では「30～39歳」（56.1%）が最も高く、次いで、「20～29歳」（52.3%）、「40～49歳」（46.3%）、「50～59歳」（42.9%）となった。

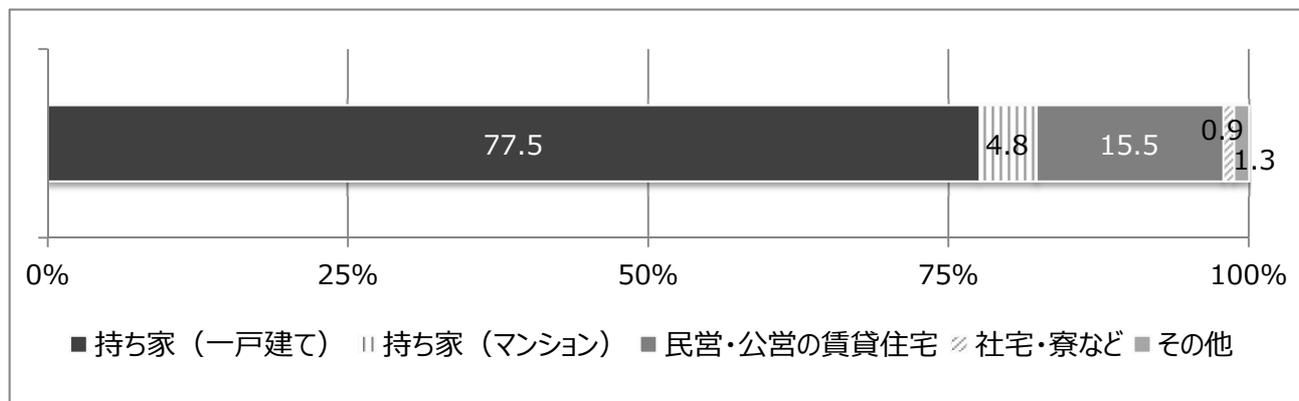
「非正規雇用者」では「50～59歳」（27.2%）が最も高く、次いで、「40～49歳」（26.4%）、「60～69歳」（24.5%）となった。

「その他就業者」では「60～69歳」（16.0%）が最も高く、次いで、「70～79歳」（14.9%）、「50～59歳」（12.9%）となった。

「学生」では「20歳未満」（93.2%）が最も高くなった。

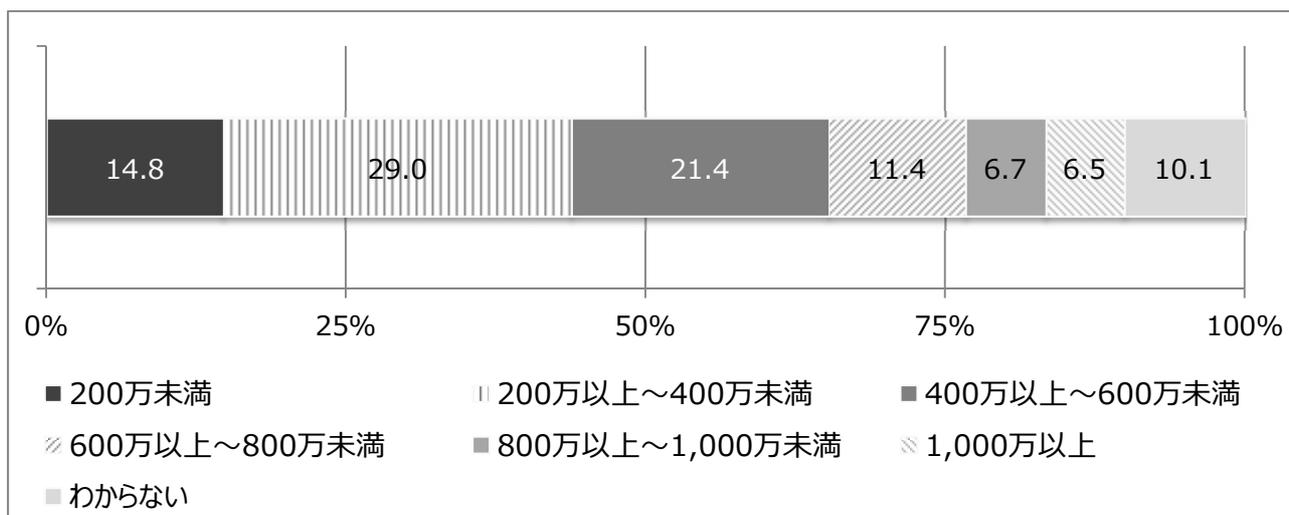
「無職」では「80歳以上」（89.2%）が最も高く、次いで、「70～79歳」（73.8%）、「60～69歳」（44.9%）となった。

住宅別構成 n=1,640



住宅別構成をみると、「持ち家（一戸建て）」（77.5%）が最も高く、次いで、「民営・公営の賃貸住宅」（15.5%）となった。

世帯収入別構成 n=1,610



世帯収入別構成をみると、「200万以上～400万未満」(29.0%)が最も高く、次いで、「400万以上～600万未満」(21.4%)となった。